

ファンに広がれ福祉の輪

「またあえる日まで」著作権料を県募金会に

インタビュー



北川 悠仁(きたがわ ゆうじん)：本名。1996年3月 「ゆず」結成。
 1977(昭和52)年1月生まれ。 1997年10月 1st ミニアルバム「ゆずの素」発売。
 横浜市磯子区岡村出身。 1998年6月 1st シングル「夏色」を発売、脚光を浴びる。
 1995(平成7)年、横浜高校卒業。 2000年5月 「嗚呼、青春の日々」発売、オリコン初登場1位。
 岩沢 厚治(いわさわ こうじ)：本名。 2003年3月 5枚目のアルバム「すみれ」を発売。
 1976(昭和51)年10月生まれ。 2003年3月～6月 「体育館ツアーすみれ」大成功。
 横浜市磯子区岡村出身。 1995(平成7)年、富岡高校卒業。

アーティスト ゆず

北川君の出身高校は、野球の強い横浜高校。岩沢君は、女子バスケで有名な富岡高校。応援はよく行きましたか。

北川「卒業してからのの方が積極的に行くようになった。今年の春、選抜で横浜が準優勝したとき、僕ら、神戸でライブを開催中でした。そのライブに、甲子園に来ていた恩師が駆けつけてくれたので、『僕も応援したい』って言うたら、スタンドの最前列に席を取ってくれて。

巨人で活躍中の斎藤選手。同期です。彼は高校時代から有名で、僕は無名。彼は僕のこと、知らないだろうな(寂しい笑い)」。岩沢「二年の時、女子バスケはインターハイで三位になっています。応援する

メンバーは決まっていて、僕はその連中と交流がなかった。だから、校内の試合くらいしか見ていない」。同年齢の二人。ともに地元・磯子区の岡村小、岡村中を卒業した。中学三年の時、初めて同じクラスになり仲良くなったが、別々の高校に進学したため、一時疎遠に。

高校卒業後再会し、伊勢佐木町の松坂屋前を舞台にライブを行っていたことはよく知られています。その際、「怖い」から嫌がらせや脅かされたことはなかったか。

岩沢「見た目、怖そうな焼き芋屋さん、『お前ら、なんかやれよ』って迫るんですよ。午後十時スタートを決めていたので、『勘弁してください。あと五分待って』と言うと、『うるさい、

やれよ』あの時は泣きたくなかった」。北川「やっと十時になったので、『始めます』一曲聴いて帰るかと思ったら、最後まで聴いて『よかった』って言うてくれて、焼き芋いっぱいもらった。『アニカに『目撃せよ日本』とメッセージも書いてくれた。怖かったけど、うれしかった」。

九五年に高校を卒業し、北川君は役者修行、岩沢君は音楽の専門学校へ。その年の秋、北川君は岩沢君に誘われ、岩沢君のバンドに加入。二人でやりはじめることになる。たまたま食べていたゆずシャーベットの味、「ちよっとおいしかった程度」だが、ピンとひらめくものがあった。「バンド名はゆずだ」とは言うものの、最初は恥ずかしくて仲間の名乗れなかったという。

松坂屋の前の路上ライブから、武者修行を兼ねて横浜駅西口、さらには鶴見、東戸塚などに遠征したそうですが、そのエネルギーの素は何だったのですか。北川「バイクに夢中になったり、仲間を集めてパーティーを開いて遊ぶことが好きな連中がいるように、気持ちをぶつける手段、発散する手段が路上ライブだったと思う」。



岩沢「聞いてほしい、とこころ願望もあったかかもしれないけど、ある種ノリの感覚かもしれない。それに家では大きな音出せないし、ライブハウスへ出る方法も分からなかった(笑い)」。プロは意識したか? 北川「はかなげにあったかもしれない。音楽でメシ食えたら最高に幸せだとしても、ザキ(伊勢佐木町)の路上でライブをやっている限り無理だろうな、って思ってた」。岩沢「全然意識なかった。数年後、プロで活動するなんて、想像したこともない」。

九七年、北川君は役者をやめ、岩沢君も専門学校を卒業、ゆずに本腰を入

れる。最初のデモテープを作り、ミニアルバムを発売したのもこの年。以後、ライブハウスやラジオへの出演、最初のシングル「夏色」の大ヒットなどを経て、ニューフォーク界のメジャーへ向かってまっしぐら。その後、リリースする作品は大ヒットを記録する。

ドラえもんエンディングテーマ「またあえる日まで」の著作権料をそっくり県共同募金会に寄附しました。動機は何ですか?

北川「この曲に取り掛かるにあたり、子供たちのアドベンチャーキャンプに参加、肌と肌で接し、共同で詩も作っていたことを思い出させてくれ、普通

の曲作りでは味わえない感動を得た。今年はデビュー五年目の節目の年。多くのファンや周囲の人に支えられてここまでこれたわけで、音楽だけでなく別の形でも世の中に恩返しできたら、と…。いろいろな世代の人に愛されてきたドラえもんの曲がきっかけだったので、各界各層の人が応援している共同募金への寄附が最適だと思った」。

岩沢「今回、こういう形で福祉への参加を始めたけど、日常的に活動できる機会は転がっているはず。いろいろな形で一社会人として、今後も福祉にかかわっていききたい。それが、ファンの人たちにも伝わり、大きな輪になると、素晴らしいと思う」。

今年、二月に「青」など連続四曲をリリースしてヒットチャートにぎわし、「体育館ツアー」では三十万人を動員するなど絶好調。若者らしく、ひらめきやノリの感覚を大事にする一方で、人気におごらず、気負わず、自然体で福祉に目を向ける共同募金会だけでなく、福祉社会を盛り上げる心優しい仲間の登壇だ。

聞き手 太谷 義輝

(神奈川県厚生文化事業団・専務理事)